

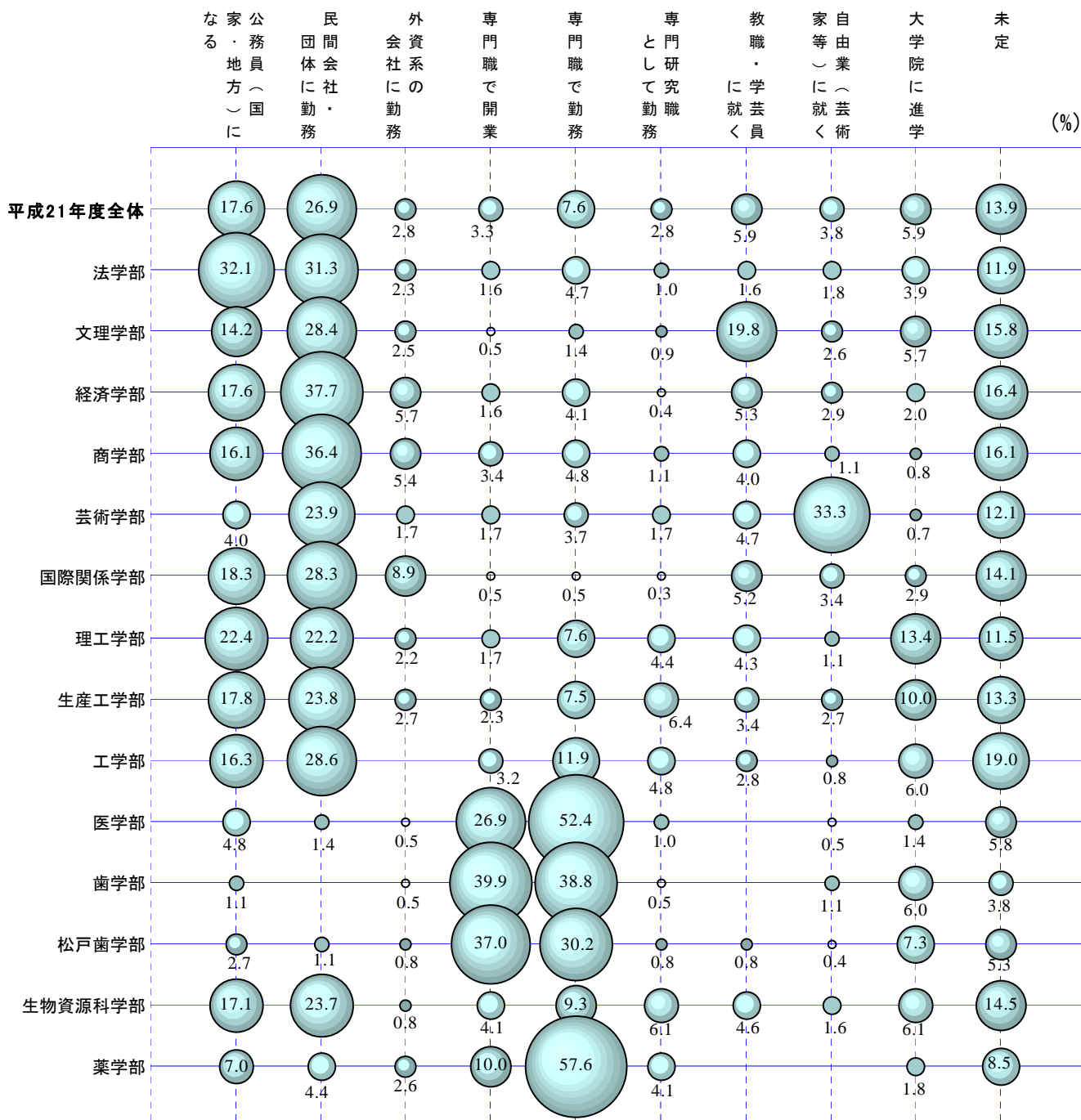
第8章 卒業後の進路

1. 希望している進路(第一希望)

「民間会社・団体に勤務」が26.9%で最高。次いで「公務員」。後者は3年前より3ポイント増
歯学部系は開業志向，芸術学部は自由業志向。

卒業後最も希望している進路を学生全体でみると、「民間の会社・団体に勤務」が26.9%で最も高く、「国家・地方公務員」(17.6%)，「専門職で勤務」(7.6%)の順で続いています。3年前と比較すると、「公務員」が3.0ポイント増加しています。学部別に見ると，経済学部・商学部で「民間会社・団体勤務」志向が35%以上とやや強くなっています。医学部と薬学部では「専門職で勤務」が50%台と高く，歯学部系では「専門職で開業」が40%弱と高めとなっています。芸術学部では「自由業」が33.3%で最も高く，文理学部では「教職・学芸員」が19.8%と高めになっています。

未定者は，1年生の18.8%から4年生の6.1%まで，学年が上がる毎に低くなっています。



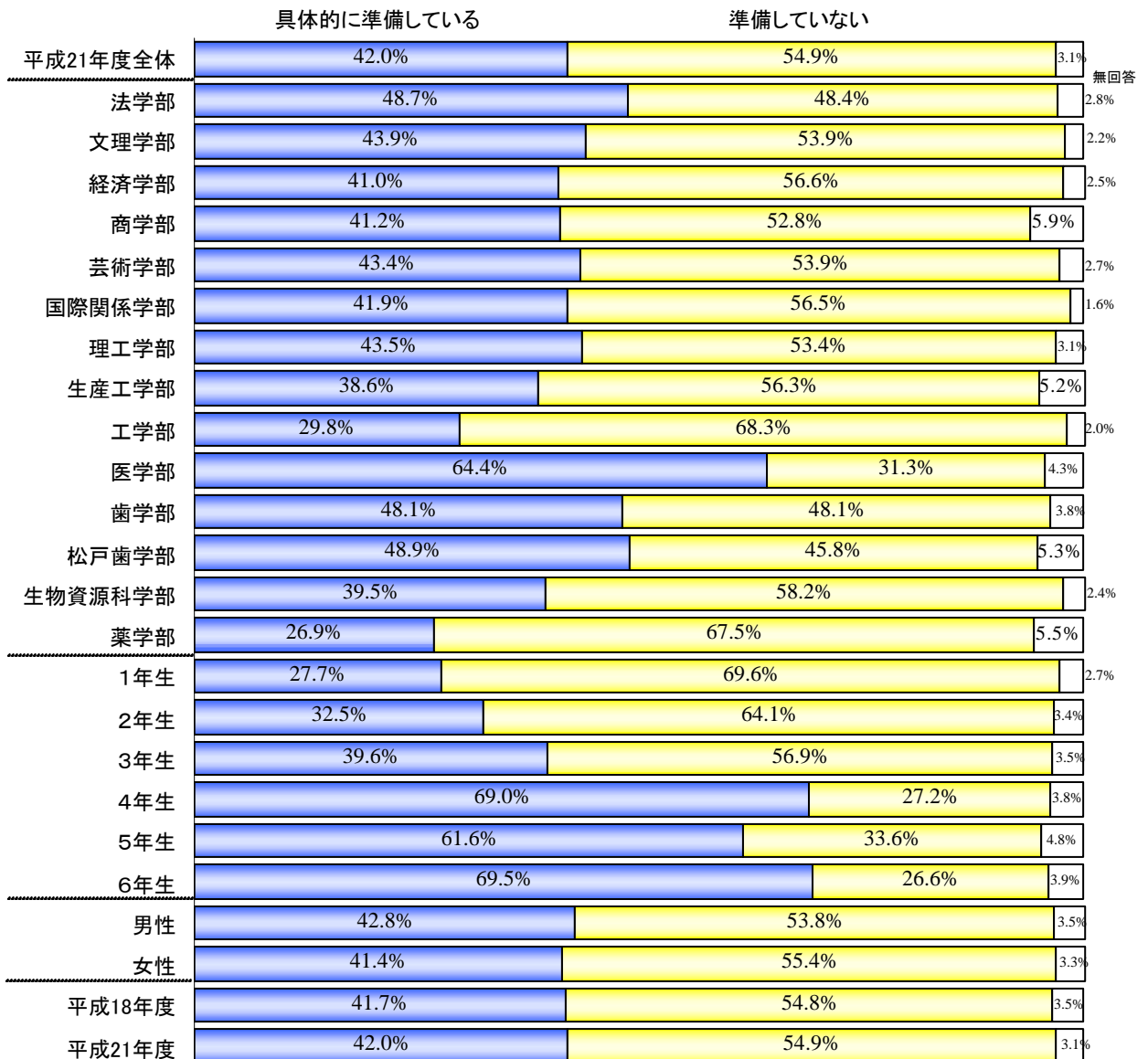
2.希望している進路について具体的な準備の有無

希望している進路について「具体的な準備」は、卒業年度に高まる傾向。
医学部・歯学部系・法学部で「準備している」学生の比率が高い。男女間に差なし。

前回新たな項目として加えられた、希望している進路について具体的な準備の有無について学生全体で見ると、「準備していない」が54.9%で「具体的に準備している」(42.0%)を12.9ポイント上回っています(無回答3.1%)。

学部別に見ると、「具体的に準備している」学生は医学部で最も高く(64.4%)、次いで松戸歯学部(48.9%)、法学部(48.7%)の順で高くなっています。逆に、「準備していない」学生の比率は工学部(68.3%)と薬学部(67.5%)で高くなっています。

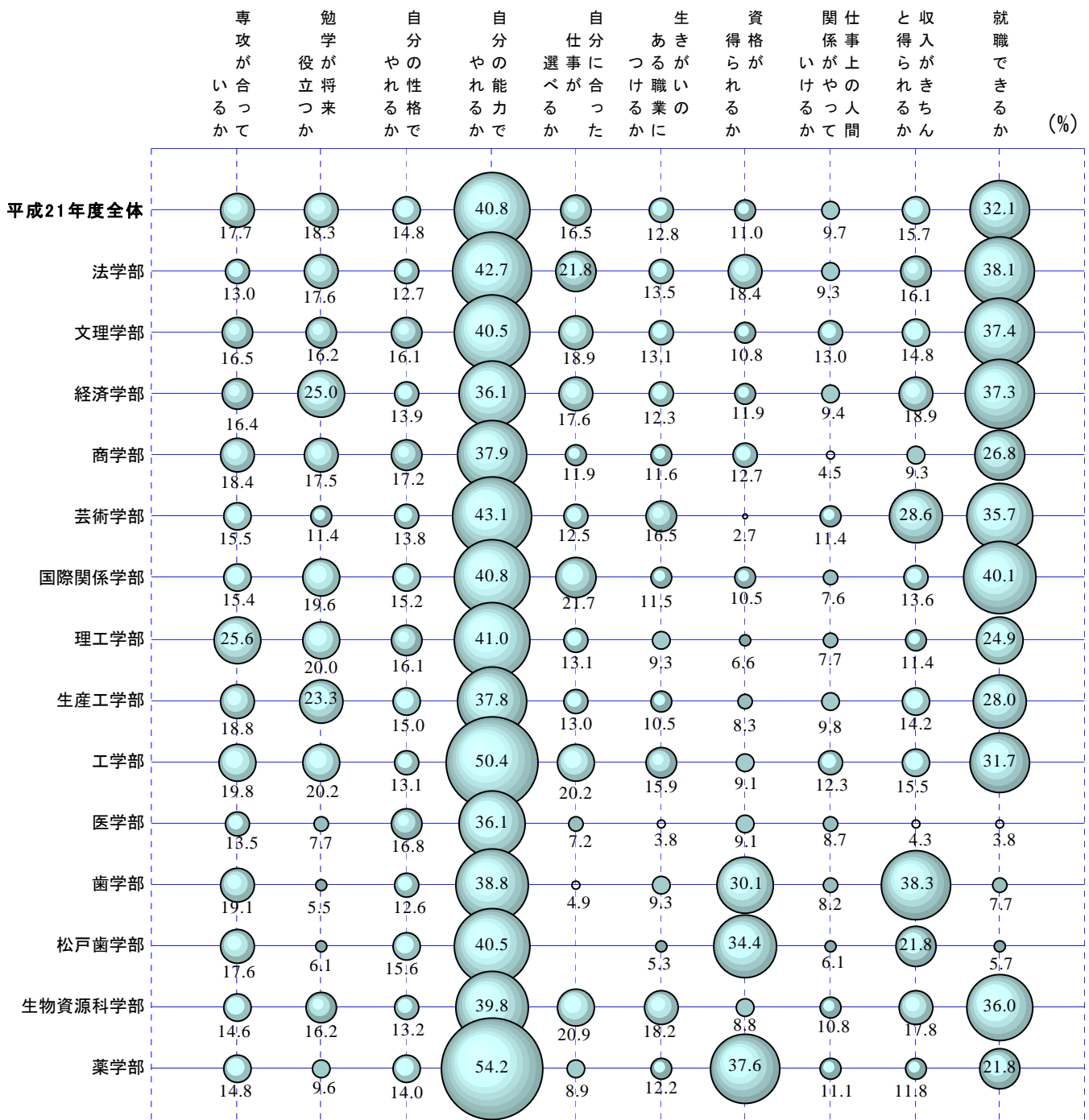
学年別に見ると、4年生と6年生では「具体的に準備をしている」が約70%と高くなっています。性別による有為差は見られませんでした。また、3年前との比較でも変化は見られませんでした。



3.将来の不安

学生の将来の不安は、「自分の能力」が40.8%でトップ、「就職」が2番目。
経済学部で「就職」，工学部・薬学部で「能力」に対する不安が強い傾向。

将来について感じている不安を学生全体でみると、「自分の能力でやれるか」が40.8%で最も高く、卒業後、競争や変化の激しい社会でやっていくことができるのかという自分の能力面について不安に思う学生が多いことがわかります。次いで「就職できるか」が32.1%と2番目に高くなっています。学部別に見ると「能力」が経済学部を除く全学部でトップとなっており、薬学部・工学部では50%以上と高めです。二番目に高い不安として、理工学部では「専攻が合っているか」、歯学部では「収入がきちんと得られるか」、松戸歯学部と薬学部では「資格が得られるか」が挙がっています。国際関係学部・法学部・文理学部・経済学部・生物資源科学部・芸術学部では、「就職できるか」が35%以上と高めになっています。

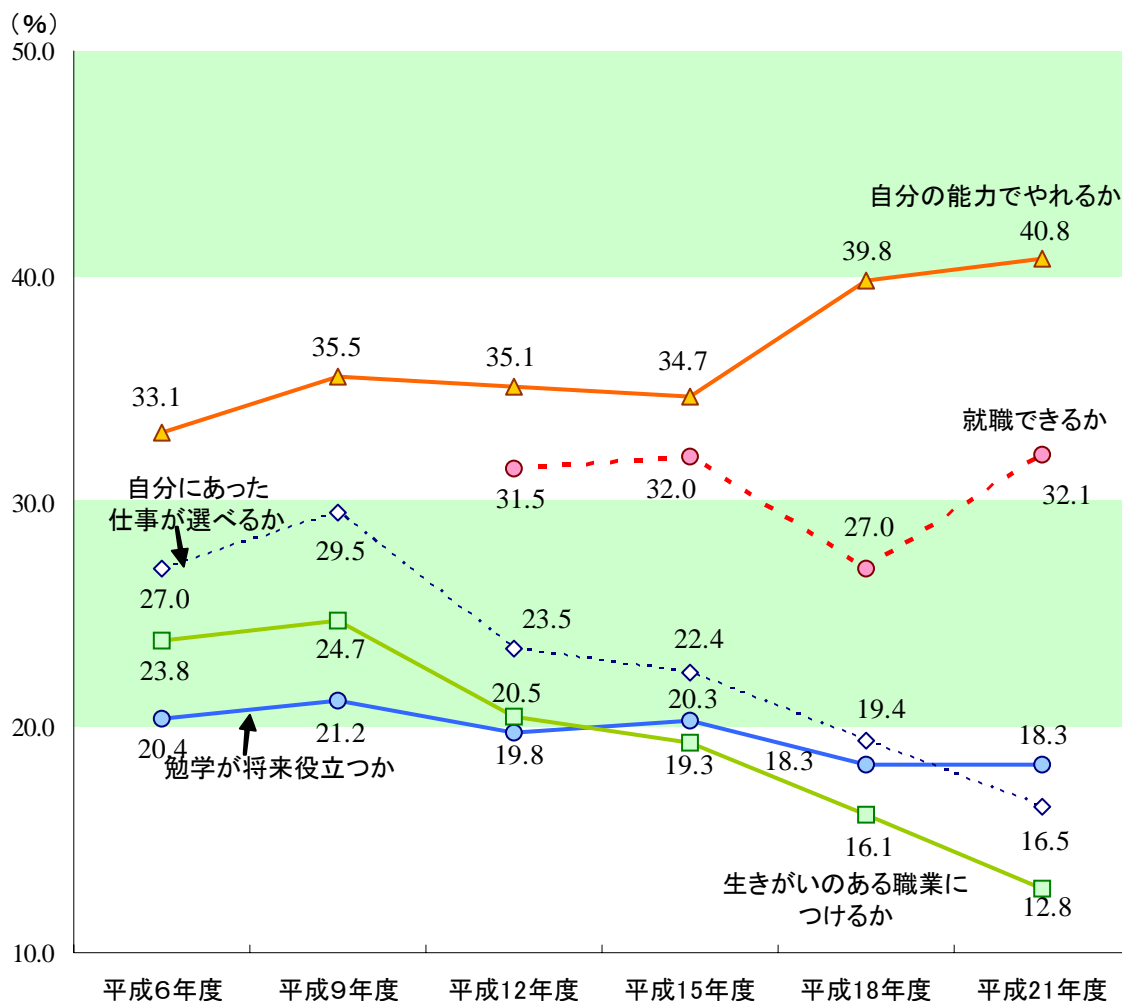


4.将来の不安の経年変化

この3年間で「自分の能力」と「就職」に対する不安が増加。
職業の選択や生きがいは二の次。就職難や能力主義の強まりなどの社会情勢が影響。

平成6年度からの経年変化を学生全体で見ると、「自分の能力でやっつけられるか」という不安が常時トップとなっています。平成15年度から6年間で6.1ポイントと急増しています。対照的に「就職できるか」という不安は平成18年度に一度減少しましたが、今回5.1ポイント増加しています。「能力」「就職」ともに大きな不安材料となっていることがわかります。一方「自分に合った仕事を選べるか」という不安や「生きがいのある職業につけるか」という不安は、平成9年度以降減少の一途を辿っています。学生の側が職を選んだり、そこから生きがいを得たりするよりも、まず自分の能力や就職そのものを不安視する学生が多くなっていると言えます。能力主義が高まっている昨今の社会情勢や、100年に一度といわれる不況による就職難の時代を反映した結果であると言えそうです。

学部別に見ると、3年前に比べ「自分の能力でやれるか」という不安が工学部・薬学部・商学部で約6～8ポイント増、「就職できるか」が国際関係学部で11.1ポイント増と目立っています。「資格が取れるか」は歯学部で平成9年度から12年間で24.9ポイント減と減少傾向が続いています。

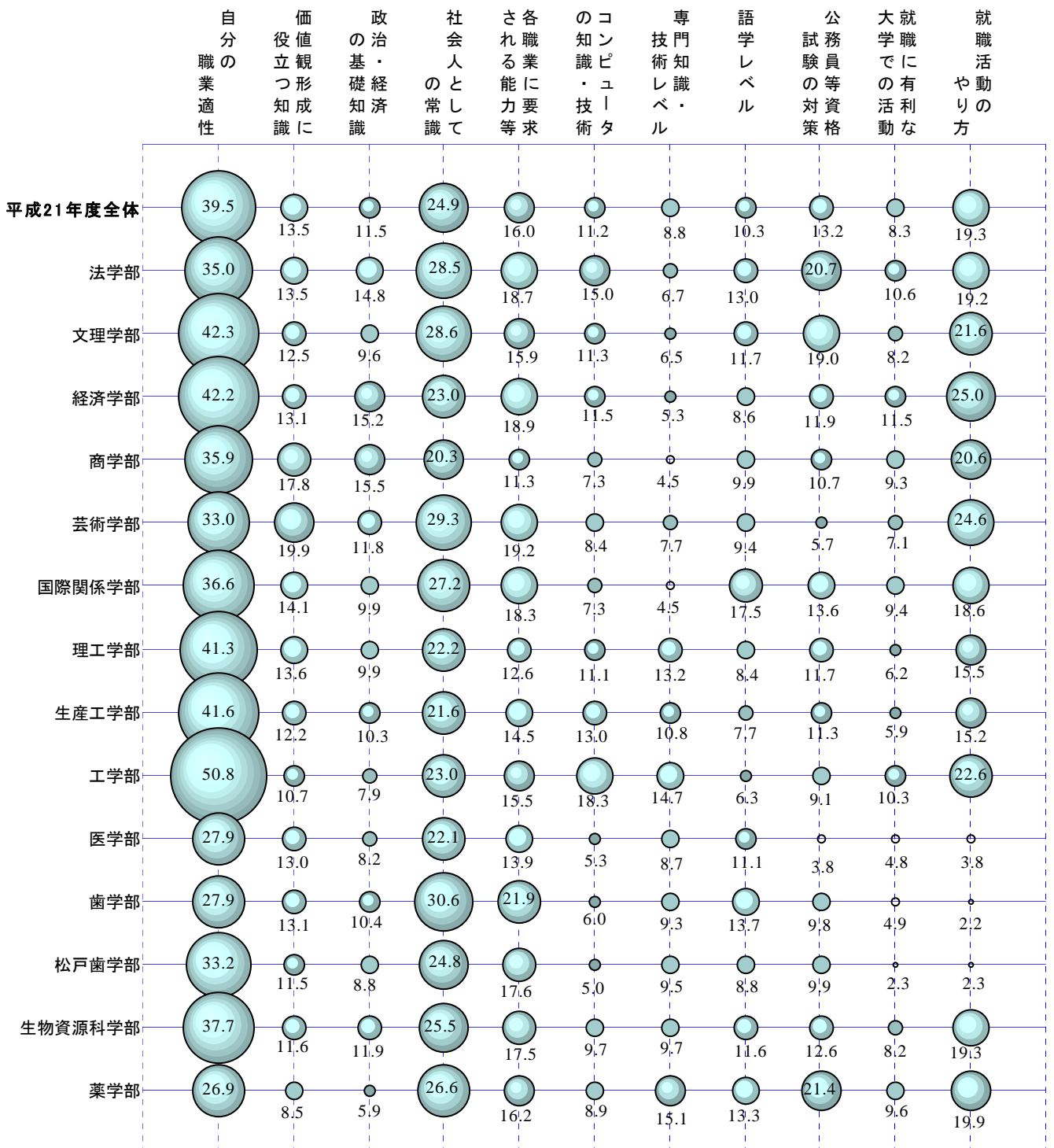


5.進路に関して得たい情報・知識

卒業後の進路に関して得たい情報・知識は「自分の職業適性」が39.5%でトップ。
 「社会人としての常識」，「就職活動のやり方」が続く。
 理工系・文理，経済学部で職業適性，歯学部で常識と要求される能力が高い。

卒業後の進路に関してもっておきたい情報や知識として，「自分の職業適性」が39.5%と最も高くなっています。次いで「社会人としての常識」(24.9%)，「就職活動のやり方」(19.3%)，「各職業に要求される能力等」(16.0%)の順で続いています。

学部別に見ると，理工系学部・文理学部・経済学部で「自分の職業適性」，歯学部では「社会人としての常識」「各職業に要求される能力」が高くなっています。



6. 進路に関して得たい情報・知識の経年変化

卒業後の進路に関して得たい情報・知識は「自分の職業適性」が毎年トップ。
「就職活動のやり方」と「価値観形成に役立つ知識」が3年前より増加。

この項目が調査に含まれた平成6年度からの経年変化を見ると、「自分の職業適性」が40%前後で毎回トップとなっていますが、3年前より3.7ポイント減少しました。「社会人としての常識」は、平成12年度から上昇傾向にあり7.0ポイント増となっています（ただし、この3年間はほぼ横ばい）。「各職業に要求される能力等」平成12年度の19.9%から年々減少傾向にあります。一方「就職活動のやり方」は平成9年度から増加傾向にあり、3年前より2.1ポイント上昇し、「各職業に要求される能力」を上回っています。「価値観形成に役立つ知識」も3年前より2.0ポイント増加しています。

学部別にこの3年間の変化を見ると、経済学部では「就職活動のやり方」、商学部では「価値観形成に役立つ知識」、芸術学部で「社会人としての常識」が約8～10ポイント増と増加幅が大きくなっています。

